

女性外科医が仕事と家庭を両立し継続就労するには Women in surgery: balancing work life and family life

* 富澤康子^{1),2)}

日本では、女性が家の外で職を持つと、仕事と家庭の両立が難しいことが指摘されており、それは女性医師においても例外ではない。日本女性外科医会は日本外科学会の外郭団体として2009年に設立された。活動は、定期学術集会時のネットワーク作りの朝食会、勉強会の開催、そして日本の女性外科医が活動するために必要な情報を調査・収集している。自分にあった支援策のある病院を選べるように病院カタログの作成、学童期における家庭と仕事の両立の問題点を抽出、「女性外科医のワークライフバランス」、「メンターシップの現状」などの調査を行った。研究では、人間工学的に女性外科医にも使い勝手の良い手術器具を追求した(女性外科医の手プロジェクト)。日本女性外科医会は臨床、研究、教育においてバランスがとれるように今後も活動していきたい。

For women who are working full-time in Japan, balancing work life and family life is not easy. This is also true for women medical doctors, and improvement of working conditions is a pressing issue. Recently, the number of women surgeons is increasing in Japan. Therefore, there is an increasing need to support continuous employment and career development for women surgeons. The Japan Association of Women Surgeons (JAWS) was established in 2009 as an affiliated group of the Japan Surgical Society, to support women surgeons' activities in clinical care, research and education. To clearly identify problems, conducting research that provides evidence in numerical figures is indispensable. For the purpose of improving working environment, subcommittee of the Japan Surgical Society and JAWS are working together hand in hand.

*Yasuko Tomizawa

1)東京女子医科大学心臓血管外科

2)日本女性外科医会

1)Department of Cardiovascular Surgery, Tokyo Women's Medical University

2)Japan Association of Women Surgeons

1. 緒言

日本では、女性が家の外で職を持つと、仕事と家庭の両立が難しいことが指摘されており、それは女性医師においても例外ではない。日本において女性医師は増加しているが、継続就労が困難で、労働環境改善が望まれている。種々の領域において支援が求められているが、問題点を明らかにするために、エビデンスを数値で示す調査・研究が不可欠である。

2. 日本女性外科医会

日本女性外科医会 (JAWS) ¹⁾ は日本外科学会の外郭団体として2009年に設立され、日本の女性外科医が臨床・教育・研究においてより活動できるように必要な情報を調査研究・収集している。日本外科学会の女性会員を正会員としており、準会員には男性医師、日本外科学会会員ではない女性医師 (整形外科、麻酔科、眼科、内科、研修医)、他がいる。2012年8月末までに会員数192名、賛助会員数3社となった。活動として、定期学術集会時のネットワーク作りの朝食会 (年2回)、勉強会 (年2, 3回) を開催している。2012年の朝食会では American College of Surgeons の女性で2人目

の President (2011-2012) の Dr. Patricia Numann を朝食会にお招きし講演していただいた (図1)

3. 女性医師が活躍するために

日本医学会分科会を対象に2008年105学会²⁾、2011年110学会³⁾における女性医師支援状況のアンケート調査から、3年間で女性役員が1学会、計3名しか増加していないことが調査研究にて明らかになった。

2011年の調査では日本外科学会の女性会員が6%、新入女性会員が22%と外科を選択する女性医師が増加していた。日本心臓血管外科学会では、1985年には女性会員は4名であったが、2011年には177名に増加した (図2)。ところが、専門医・指導医などの取得・更新条件は、医師が男性しかない時代に作られている。女性医師が医療チームの一員であること、女性医師が妊娠・出産することを考えていない規則が未だに多い。そのため、規則を知り、変え、女性医師が働けるようにしなければならない。各種委員会の内、特に意志決定に女性の視点も必要と思われる委員会に加わり、発言するには、学会の評議員にならないとむずかしい。2011年には、日本医学会分科会の外科系の学会において女性の評議員・代議員は計32名しか



図1 Dr. Patricia Numann と日本女性外科医会会員との集合写真
第112回日本外科学会定期学術集会時の朝食会 (幕張、宮崎勝大会長)

いなかった。継続就労しにくい状態が持続しているため、1委員会に最低1名の女性委員を加えることを提案したい⁴⁾。

また、日本において医学部の教授に女性が少なく⁵⁾、女性医師の昇任がおくれていることも指摘されている。

4. 臨床で継続就労するために

臨床医として、家族を持ち、ワーク・ライフ・バランスを保って継続就労を可能にすることが望ましい。自分にあった支援を選べるように、日本外科学会代議員の施設における支援状況を JAWS は調査し、「病院カタログ」⁶⁾を作成した。「学童期における家庭と仕事の両立の問題点」、「女性外科医のワークライフバランス」⁷⁾、「メンターシップの現状」などのアンケート調査を行い、学术论文として、また成果報告書として発信してきた。

5. “Women in Surgery” に関する調査研究

手術器具（自動吻合器）が1サイズしか無く、

女性外科医は手が小さいので使い勝手が悪いという意見を聞き、「女性外科医の手プロジェクト」として、日本消化器外科学会会員を対象にアンケート調査をおこなった⁸⁾。また、第66回日本消化器外科学会総会（宮川秀一大会長、名古屋）会場にて男女外科医の手の測定を行った。

6. 活躍できる女性外科医を育てるための教育

日本の女性外科医が今後、学会の執行役員として活躍するためにはマネージメント、リーダーシップ、メンターサポート、などに関する教育が必要である。米国では女性外科医を教育するために、Women in Surgery: Career Symposium を毎年開催し、2日間で20分の講義を50コマ行っている。機会ある毎に若手にはキャリアパスや、モチベーションの保ち方を、また年長者には部長・教授になったときに困らないように手術以外でのマネージメントの仕方、リーダーシップの取り方を教育している。また、医学教育のDegreeを取る啓発活動を盛んに行っている。

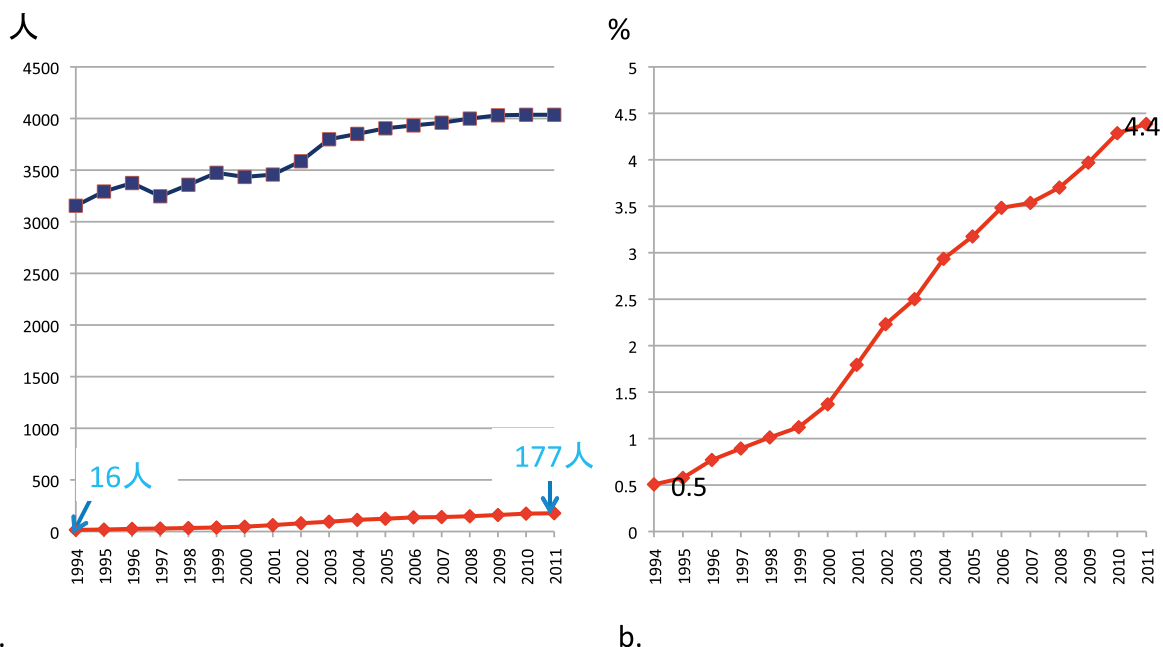


図2 日本心臓血管外科学会の会員数の変化（1994年-2011年）

a. 総会員数と女性会員数の変化

1994年から総会員数は1.28倍、2011年には女性会員数は11倍になった。

b. 女性会員の割合

女性会員の割合は1994年には0.5%であったが、2011年には4.4%になった。

American College of Surgeons の下部組織として Women in Surgery 委員会があり、外郭団体として Association of Women Surgeons がある。両者は車の両輪のように活動しており男女共同参画に効果的に見える。日本でも見習いたい。

7. 今後の課題

女性医師支援を効率良く行うためには学会の下部組織と外郭団体の効率良い活動が欠かせない。日本女性外科医会は設立3年経過した。Women in Surgery において臨床、研究、教育においてバランスのとれた支援を行い、継続就労に結びつき、ワークライフバランスを保てるように今後も活動していきたい。

[文献]

- 1) 日本女性外科医会 . <http://jaws.umin.jp/>. In
- 2) 富澤康子, 川瀬和美, 萬谷京子, 永田康浩, 寺本龍生, 日本外科学会女性外科医支援委員会. 医学会分科会における女性医師支援の現状 アンケート調査から. 日外会誌 2009;110:154-161
- 3) 富澤康子, 野村幸世, 前田耕太郎, 平田公一. 日本医学会分科会における女性医師支援 2011年: 第2回目アンケート調査. 日外会誌 2012;113:322-330
- 4) 小崎真規子, 檜山桂子, 早野恵子, 山本典子, 板東浩, 前田賢司, 木原康樹, 村島温子, 日本内科学会専門医部会女性医師に関するワーキンググループ. 女性総合内科専門医のキャリア形成 総合内科専門医に対する質問紙調査から. 日内会誌 2011;100:2020-2031
- 5) 河野恵美子. 外科における女性の参画の現状と今後の展望. 日外会誌 2012;113:331-333
- 6) 富澤康子, 河野恵美子, 野村幸世, 明石定子, 川瀬和美, 神林智寿子, 萬谷京子. 女性外科医の現在と未来 日本外科学会代議員の施設における女性勤務外科医師に関する調査報告. 日外会誌 2011;112:349-353
- 7) Kawase K, Kwong A, Yorozyu K, Tomizawa Y, Numann PJ, Sanfey H. The Attitude and Perceptions of Work-life Balance: A Comparison Among Women Surgeons in Japan, USA, and Hong Kong China. World J Surg 2012;10.1007/s00268-012-1784-9
- 8) Kono E, Tomizawa Y, Matsuo T, Nomura S. Rating and issues of mechanical anastomotic staplers in surgical practice: a survey of 241 Japanese gastroenterological surgeons. Surg Today 2012;42:962-972